

昭和三十三年六月十九日招集
第二回市議会议定例会之議錄

昭和三十三年館山市議会才二回定例会会議録

昭和三十三年六月十九日午前十時より館山市議会才二回定例会を館山市役所分館会議室に招集、

出席議員(三十二名)

一	番	石	井	梨	二	番	望	月	暉	作
三	番	小	沢	太助	五	番	福	岡	保	徳
六	番	山	本	昇	七	番	遠	山	ヨネ子	
八	番	田	村	善兵衛	九	番	後	藤	ゆき	
一〇	番	山	口	房治	一一	番	佐	久間	為次郎	
一二	番	小	決	光義	一四	番	大	野	清五郎	
一六	番	鈴	木	孝	一七	番	小	沢	恵太郎	
一八	番	鈴	木	市蔵	一九	番	小	谷	無違	
二〇	番	田	中	禄郎	二一	番	吉	田	勇治郎	
二二	番	金	木	久一	二三	番	飯	田	義男	

二四番 秋山 万次 二五番 萩生田 七郎

二六番 田中 忠藏 二七番 黒川 佐太郎

二八番 伊勢 仙之助 二九番 松本 藤太郎

三〇番 安西 政治 三一番 山口 康

三二番 嶋 貫 壮作 三三番 可世木 芳藏

三四番 高橋 文治 三五番 嶋 田 繁

一 欠席議員(三名)

四 番 脇 田 順一 一三番 中村 良五

一五番 磯 辺 周雄

二 法才二百二十一条による出席説明員

市 長 田村 利男

助 役 小 出 武男

総務課長 兒 戸 貴

保険課長 唐 沢 貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

收入役代理

眞田森吉

送管書記長

渡辺 菱

建設課長

新井重助

農産統計課長

吉田耕一

秘書課長

山谷潤昶

福祉事務所長

長谷川 広治

厚生課長

神作 啓次郎

戸籍課長

高木 哲三

税務才二課長

山口 実

税務才二課長

伊藤 幸太郎

診療所事務長

池田 亮山

教 育 長

工藤 和平

秋委庶務課長

鶴沢 貫寛

監査委員 奥 武天

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長 高梨 清一

書記 太田 博雄

職員 山口 晴之

昭和三十三年才五回館山市議會定例会議事日程

昭和三十三年六月十九日午前十時開議

日程才一 議席変更

才二
臨時出席検査立合議員の互選について

報告才六号 昭和三十三年度五月例月検査報告

報告才七号 昭和三十三年度五月例月検査報告

報告才八号 昭和三十三年度六月例月検査報告

報告才九号 昭和三十三年度六月例月検査報告

報告才一〇号 監査報告について(施設組合)

才四

日程才五 陳情書(防犯街灯)

才六 議案才三十三号 市道の路線の一部を廃止するについて

才七 議案才三十四号 道路敷土地寄付收受について

才八 議案才三十五号 館山市婦人会館設置条例制定について

才九 議案才三十六号 館山市婦人会館建設工事請負契約の締結について

才一〇 議案才三十七号 館山市財政調整基金に関する条例制定について

才一一 議案才三十八号 館山市健康保険運営協議会委員の委嘱について

才一二 議案才三十九号 西小学校講堂寄付收受について

才一三 議案才四〇号 館山小学校敷地買収について

才一四 議案才四一号 館山市立館山高等学校敷地買収について

才一五 議案才四二号 土地買収について

才一六 議案才四三号 建物移転補償料ならびに休業補償料支払について

才一七 議案才四四号 市有財産の処分について

才一八 議案才四五号 国民健康保険料率算定の基本賦課総額について

日程才一八 議案才四六号 昭和三十三年度館山市文入文出追加更正予算

才一九 辞職願いについて

一全議に付した事件

議事日程に同じ

○議長(石井梨君)本日の出席議員数三一名、こいより才二回市議會定例会を開催いたします。

○議長(石井梨君)本定例会議案説明の爲田村市長の出席役、完戸課長、唐沢課長、羽山課長、眞田收入役代理、渡辺書記長、新井課長、吉田課長、山谷課長、長谷川所長、神作課長、山口課長、高木課長、伊藤課長、池田所長、工藤教育長、鶴沢課長、岡監査委員以上の出席を求めましたので報告いたします。

○議長(石井梨君)ついで全議録署名頁の決定を行います。

お諮りいたします。従来例にならうとして議長の名により決定いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)御異議ないとお認めます。

それでは一審議員吉田勇治郎君ニハ審議員山口康君以上御兩名君に決定いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)御異議ないとお認めます。

よって決定いたします。

議長(石井 潔君)ついで会期の決定を行います。

本定例会の会期につきまゝでは議会運営協議会の意見は本日一日ということであります。

お諮り致します。会期を本日一日と決定することに御異議
ございませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(石井 梁君)御異議ナシと認めます。

よって会期は一日と決定いたします。

議長(石井 梁君)ついで議案を配布いたさせます。

(議案 配布)

議長(石井 梁君)今日の議事はお手許に配布の日程表によ
り上程いたします。

議長(石井 梁君)日程第一議席の変更についても議題といたしま
す。

お諮りいたします。従来の例に倣いまして本日議席の

変更をいたしますことに御異議ございませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないとお認めます。

よって議席の変更いたしますことにいたします。

重ねてお諮りいたします。慣例に従いますと一番席は議長たる者一八番席は議全運営協議会委員長たる者三五番^席は監査委員たる者の各席となっておりませんが今回も以上の通りの規定をいたしますことに御異議ございませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないとお認めます。

よって一番席一八番席三五番席は以上の通り決定いたします。

議長(石井潔君)こいより議長議運委員長監査委員の各席

を除いた全議員の議席の変更を会議規則オニ条の規定によりくじにより行います。

なお申し上げます。ただいま議席にお見えにならぬ方のかくじは現在お隣りの方が変わってお引き下さるようについてたいと思います。すが御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よってそのようにおねがいいたします。

ニ番席より職員の特参するくじを順次お引き下さい。

(書記抽選)

議長(石井潔君)ただいまのかくじの結果を事務局長より報告いたせます。

事務局長(高梨清一君)一番石井潔さんニ番望月暉作さん三番小沢太助さん四番脇田順一さん五番福岡保徳さん六

番山本昇さん 七番遠山ヨネ子さん 八番田村喜兵衛さん 九番渡蘇ゆきさん 一〇番山口房若さん 一二番佐久間為次郎さん 一二番小矢光義さん 一三番中村良五さん 一四番大野清五郎さん 一五番磯辺周雄さん 一六番鈴木孝さん 一七番小沢恵太郎さん 一八番鈴木市蔵さん 一九番小谷照達さん 二〇番田中禄郎さん 二一番吉田勇若郎さん 二二番金木久一さん 二三番飯田義男さん 二四番秋山万次さん 二五番荻生田七郎さん 二六番田中忠蔵さん 二七番黒川佐太郎さん 二八番伊勢仙之助さん 二九番松本藤太郎さん 三〇番安西政治さん 三一番山口康さん 三二番嶋貫壮作さん 三三番可世木蔵さん 三四番高橋文治さん 三五番嶋田繁さん

議長(石井潔君)日程才二臨時出納検査立会議員の互選を行います。

お諮り致します。互選の方法は従来例に倣いお手許

に配布の申合せの通りに致しますに御異議ありませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(石井梁重)御異議ないと認めます。

よって議長副議長監査委員及び今まで立合議員となつた方を除いた全議員の抽選により決定することにいたします。

なおこの際お諾りいたします。

現在立合議員の抽選にもつておる議員の方が十名でございます。従来例によりますと四名ずつ送出してあつたのでありますがあと十名残っておりましてこの八月の土納検査の立合議員来年二月に行います立合議員二回分十名を従来例は四名ですが五名といたすことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)そのように致します。

抽送棒の先端を黒く塗った棒を右引の方を当選人といえます。

こいより抽送を行います。

(書記 抽送)

○議長(石井潔君)ただいまの抽送の結果を申し上げます。

立会議員山本昇君 二六番議員田中忠蔵君 二番議員望月暉作君 二八番議員伊勢仙之助君 三三番議員可世木芳蔵君以上の通り来る八月行われます臨時出納検査の立会議員に決定いたします。

○議長(石井潔君)日程才三常任委員会委員の改選を上程いたします。

お諮りいたします。委員の改選を行いますことに御異議ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（石井梨君）御異議なしと認めます。

よってこの決定に従いまして現在の常任委員会委員は全員辞職した事といたしますことに御異議ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（石井梨君）御異議なしと認めます。

よってそのように決定いたします。

議長（石井梨君）しばらく休憩いたします。

午前十時四十分休憩

午前十一時三十分開議

。議長(石井梨君)休憩前に引続いて開議を開きます。

こいより常任委員会の委員を本市委員会条例第四条の規定により選任いたします。

第四条は委員会の委員は議長が議会に諮って選任する事になっております。

ただいま事務局長さして朗読いたさせます。

。事務局長(高梨清一君)朗読いたします。

総務委員会委員 佐久間為次郎さん 田中禄郎さん 山本昇さん 高橋文治さん 甲村良五さん 脇田順一さん 嶋貫壮作さん 石井梨さん。

経済委員会委員 望月暉作さん 田中忠蔵さん 鈴木市蔵さん 小矢光義さん 吉田勇吉郎さん 飯田義男さん 山口房治さん 山口康さん 可世木芳蔵さん 磯辺周雄さん 伊勢仙之助さん

文教民生委員 後藤ゆきさん 黒川佐太郎さん 小沢恵太郎さん 藤生田七郎さん 遠山ヨネ子さん 嶋田繁さん 金本久一さん 松本藤太郎さん

建設委員 田村喜兵衛さん 沢太助さん 福岡保徳さん 大野清五郎さん 鈴木孝さん 安西政治さん 秋山万次さん 小谷無遠さん

議長(石井潔君)以上の通り各常任委員会の委員を選任いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって決定されました。

なお委員会条例第五条の規定により各常任委員会において^(委員長以下)委員長及び副委員長を御報告申し上げます。

総務委員会委員長佐久間為次郎君 副委員長山本昇君

經濟委員會委員長吉田勇祐郎君 副委員長田中忠藏君
文教民生委員會委員長萩生田七郎君 副委員長小沢恵太郎君
建設委員會委員長田村喜兵衛君 副委員長安西政治君
以上の通り御報告申し上げます。

この際議會運営協議會委員長の議席の変更を行いたいと思ひますが御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(石井梨君)それでは一八番議員一二番議員と交替になります。

○議長(石井梨君)日程才四 報告才六号 報告才七号 報告才八号
報告才九号 報告才十号一括上程を致します。

(書記朗読)

報告才六号 昭和三十三年度五月例月検査報告

報告オセ号

昭和三十三年度五月例月検査報告

報告オハ号

昭和三十三年度六月例月検査報告

報告オ九号

昭和三十三年度六月例月検査報告

報告オロ号

監査報告について（施設組合）

（監査委員 園武天君 登壇）

○監査委員（園武天君）一般会計につきまゝては大休この表によつて御了承いただきたいと思います。市税の欠損額につきまゝて七十三万四千余計上まいりました。三月二十日三十万一千五百十四円でございまゝたので四月中に三十六万三千四百三十円の欠損を計上したことになります。三十七年度の分でございます。一般会計はあとこの表によつて御了承をお願いいたします。

つぎに特別会計に移りまして公益質屋についてでございます。収入におきまして貸付金回収額において三月

で六千十ヶ月とでております。こゝは三月末の貸屋の
出納員の保管金を会計へ入れますときに過つて多
く入れすぎたものでございまして貸付金利子が六千
十ヶ月ありましてものを三月三十一日に貸付金利子
の方へはその金を入れますうちにえてさらに貸付金回収
額の方へもそれを入れてしまつたのでございます。あと
で現金を調査いたしまして現金がそれだけ不足して
過りである、た事に気がついたのでわけでございますが
それを月末三十一日にやつたために翌月四月になつて
訂正をしたのでございます。つぎに支出の貸付金の所
で三百十萬九千七百二十円とございます。こゝは貸付金
と書いてありますが貸付金前渡金でございます。一
年度末でありますので出納員の保管してあります
金が十二萬九千七百二十円余りましてこゝも会計

のもとも、度入りのわけでございます。機外の支払未
 済額三百五十万とありますがこれは支払通知をしま
 して金券を切ったのです。受取った方が月末までま
 だ取りにこないでこの数字が残ったのでございませ
 う。貸付現在高二百十八万二千五百二十五円その内訳は船形が
 百四十五万五千二百二十円、富崎が七十一万五千九百五十
 円でございます。

つぎに国民健康保険の会計でございますが収入におきま
 して其の他収入において六百十五万二千七百七十四円受入
 いております。これは才四半期分国保の補助金でござ
 います。このうち助成交付金が四百九十四万五千六
 百四十三円、事務費補助金が六十七万二千円でございます。
 以上によって御了承願いたいと思ひます。

つぎに報告才七号にうつりまして同く五月十三日

に実施いたりました。三十三年度の例月検査でございます。
大体この表によって御了承いただきたいと思います。支
出におきまして一千百万余りでございます。このうち納
税組合で完納将必の報償金として百二十六万一千三百五
十八円支出されております。なお機外におきまして
三十三年度分の混入として一万七千九百五十三円記録さ
れておりますがこれは市税関係の三十三年度に入れ
べきものを金庫であやまして三十三年度へ入れて
まゝ、たわけでございます。五月に入って訂正されて
おります。

つぎに公益債屋にうつります。債付現在高が二百三
十五万一千円余りとなっております。これは船形債屋が
百五十八万九千四百二十円、富崎債屋が七十六万二千四百
五十五円でございまして。

つぎに国民健康保険におきまして下の方に収入支出差引金三百三十七万七千九百三十二円となっております。収入支出差引きましてこいだけの不足でございます。一般会計のうち百万円流用して市金庫の現在高は六十二万二千七百八十八円となっております。以上で報告を番号の説明を終りましてつづいてお八号に移ります。六月十三日実施いたしまして三十三年度の例月検査につきまして御説明申し上げます。

三十三年度の最終のりめくりでございます。収入支出差引きまして二千三十三万六千三百十四円の黒字となっております。まず市税におきまして五百九十二万円の収入がございますが市民税が二百三十三万四千円、固定資産税が三百一十萬四千円、余電気がス税が二十一萬四千円、余都市計画税が十六萬四千円の内訳で

でございます。

欠損額が百七十八万一千円余となつておりますがこの
五月中に欠損を計上された額が百四万六千二百十四円
でございます。二十五年年度から二十七年年度頃までの分
がここに計上されております。市税の収入未済
額並びに滞納額が二千四百五十四万六千八百でございます。
三十二年年度の市税の収入割合を見ますと現年度にお
いて九十二・六％繰越において四二・六％合計して八十三・六％
でございます。昨年度三十一年度は合計が七十八・九％で
ございましたので徴収割合も上昇しております。以上
で一般会計を終りましてつぎに公益質屋にうつり
ますがこのものは四月五月検査と全く同じでございますの
でこの表で御了承いただきとうございます。質屋会計
にあつては収入支出差引をまして五十九万九千百六

十三月の黒字となっております。

国民健康保険について申し上げます。保険料の収入にお
きまして三十三年度の総計が二千二百二十三万九千六百六
十六円となっております。これは現年度におきまして
徴収歩合が九〇・六％に致りました。大望の九〇％を突破
いたしまして市といえども国庫補助金令によ
れば約百万円の助成金がもらえるとの事でございま
して所管課の課長以下係員の努力に対して衷心から敬意
を表したいと思ひます。保険料の欠損額が五十二万一千
七百十円となりました。これはいすいも古いものでございま
して時効になつたものでございます。保険料の収入未済
額は七百二十二万七千七百七十四円でございます。国民健康保険
会計におきまして収入支出差引を以て四十万九
千四百二十六円の残金が出ております。一般会計、公

益賃屋会計 国民健康保険会計の三者の差引き残
金を合計いたしますと二千百三十三万四千九百三月の
剰余金でございます。以上でオハ号の説明を終りま
てオ九号の説明を申し上げます。

一般会計におきまして市税において一千三百万円余
の収入でございますが昨年の固定資産の納期が参り
まして八百六十三万円余入っております。なお本年度
から軽自動車税が徴収されて五十七万円タバコ
消費税も割合が上昇しまして四月分として百八十
二万九千四百四十円入っております。税外収入におき
まして五月の松戸競輪の分として二百万円受入れて
おります。その他はこの表によって御了承ぬがいと
うございます。

つぎに公益賃屋の会計でございますが貸付現在高

が二百四十三万四千五百六十円余のまづ若干ふえてあります。船形質屋におきまして百六十三万五千八百二十円富崎質屋におきまして八万二千三百五十円の貸付高でございます。国民健康保険会計におきまして収入支出差引をまゝして七万四千三百九十九円の不足でございまして一般会計より百万円の流用となつてあります。以上で報告九号の説明を終ります。

つぎにオ一号につぎまして御説明申し上げます。

御承知の通り、館山高等学校の学校施設組合が昭和三十年六月に創立いたしました。最初返済完了まで七ヶ月の計画でございまして、たゞその後自治庁からの通達によつて三十二年度によつて速かにこれを善処整理するということでありまして、改正理を行つたわけでございます。昭和三十年、度から三十二年度まで

の各收支決算に於て、最後の経済委員会、決算に
いさ五月十三日と五月三十一日に監査致し、たのでこ
の報告書を提出した次でございす。大体この報告に
よつて御了承いただけると思ひます。五月十三日に監
査して参り、た時はまだ主資者三名が行方わから
りませんで未払になつてあり、た。三名で元金六
千円、利子が八百九十円、六千八百九十円がまだ未整理
となつてあり、た。たがその右約十日間でその三名の行
方をくわしく調査してもらひ、た。たして、くわかり、
して、それを支払い、た。たので、ここに五月二十四日が最
後の支払でござい、た。たので、ここで学校債の元金一千
万円、この利息二千円、分の百七十一万円、全部主資者に
返還し、くは、支払を免、た。たわけ、た。た。以上
を以て、報告、た。た。号までの説明を終ります。

議長(石井潔君)本報告に對し、まして御質疑でございますか。
三の番(高橋文治君)特別会計國民健康保険の保険料徴収に
つきます。では私は前会の市会におきまして申し上げま
したんですが、館山の國民健康保険の保険料は現年度が
當時は徴収率が八十五%ということをしていわれたのであ
ります。これが九〇%に達すれば、一号方式の館山市の保
険組合ですくなくとも百万以上この補助金がいま少
努力してはどうかと申し上げましたんですが、その後保険
課の職員の非常な努力によりまして、たゞいま監査委
員の報告によりますと九〇%を突破してあるような御
報告でございます。がこの保険課の職員の努力に對しま
しては私は衷心から敬意を表するものであります。が
當時市長さんは九〇%にとてならないと考えておら
れたように見受けられたのですが、保険課の努力によ

りまゝで九〇％に達してまいた。みすく百万円下まると
もうえなか、たのがもらえるようになりますことは実に
努力に對してまゝでは感謝いたしますが市長さんはこの
いかに保険課が自分の責任上とはいいいながら本当に特
別の努力をされてかような成績を上げたのでありま
してなんらか、この努力に對してまゝでこの労を補つてはど
うかもちろん自分の責任をはたした事という上、これ
は本当に特別の努力により九〇％になつたのでこれに
つぎまゝで市長さんの考えは。

。市長(田村利男君)高橋議員の質問に對してお答え申し上げま
す。

再三保険料の徴収率の悪い事につぎまゝで御進言を
頂戴いたわけでありますがその右保険課員の努力
と一般館山市民の絶大なる御協力によりまゝで九〇・六

％に達する事が出来たことは眞に同慶に堪ない次第で
ございます。高橋議員が早速最後に慰安をござういの
言葉を市長から早く出してやれというお言葉の様に
取りいしますがお実は百ほご前日課員出張所職員合
せて三十名集めまして簡単ですが慰安をやつたのであ
ります。本当に皆さんの御努力に對しまして厚くお礼
を申し上げます。

なおくるであらうところの百万円につきましては全
事業の充實とくに保険施設の面に意を注ぎたいと
かういふふうに考えております。
今後ともに協力をあわがいたします。

○議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

○二九番松本藤太郎君)三十二年度の一般会計でございしますが
ただいま御報告をうけた一千三百三十一万九千五百四十

六月ですかまことに結構な結果がでたのであります
がもちろん当局の努力に對して感謝いたします。た
だこれについては徴税関係の方のお骨おりも感謝
するものであります。ただこの支出の状況でござ
います。市役所費あるいは都市計画教育その他
ら社会労働あるいは産業経済こういったような重
要な区分がいずれも百万円以上の残が出てゐるん
です。これは当初予算を組んだ時とその後かなりの査
定において必要がなかつたのであるか。そういう点を
お尋ねしたいと思ひます。特に市役所費が百五十八万の
残が出てゐるということは非常ににきく予算のとき
に残る勘念がありはしないか。というふうに考えられ
るんですがいま申し上げました市役所あるいは都市計
画その他から教育社会労働産業経済その他五項だけが不

さく残高が多いのでございます。

○市長(田村利男君)御質問にお答え申し上げます。

その五項につきまゝでは非常にいちく集計された結果でありますので非常にややこしい問題でいちく説明するのは困難ですが大体おおずかみにいたしまして市債がこちらであてにしていた事がこない。この間事業費がそれだけ浮いたというような事もある。補助金も来たのでございます。そういう面があります。五百万円で入れられた場合四百八十万で落れた。二十万もうけたというようなものが累計いたしましてたものがこういうものになるという事が考えられる。

それから各部局におまゝにして一ぱりに一ぱって検約した額がそういうものがいずれもつめたものが

わずかにいゆいまして個々のものにつきましては一す
申上げかぬる次で大体起債においても最初予定し
たものがこない場合においてまた念のために申上げ
ますが昨年度計画した事業につきましては大体予
算通り全部執行してある次でございす。

○二九番(松本藤太郎君)市長さんとしてはなるほどさういっ
たような前例はあると思ひますがであらうという
仮想的なものでなくそれは決算の済んだものであり
ますので担当の課長さんにどういふんで今申しま
した予算二百万のものが百六十万で終つたんだとい
うような事も我々としては非常に知りたいといこ
ろなんで決いて圧縮した事がだすべきものをと
らないであつたんだという事でなく今申上げま
す五五五について、担当の課長さんに簡単でよろし

やうでございますからお知らせねがいたいと思います。
 助役（いし武男君）今答弁するということになりますけれど
 一応いなければなりません。市長から今申しました
 ような結果がでるようになつたのであります。この
 詳細につきましてはいずれ決算において御説明する
 ことになつておりますが今どうしても必要であります
 すれば調べまして御説明したいと思ひます。

。三九番（松本藤太郎君）私はこまかくでなく大ざっぱで結構
 です。今市長さんのあつちや、たような程度で結構
 ですからもう少しほりさげたところの説明を聞か
 していただきたい。こういう事なんです。

決算のこまかいことは今ここで聞こうと私はして
 いるのではない。担当課長さんはわかっているのだ
 から自分のところえ割当てられたものをついていふ言

百五十万残ってこういう莫いところの二つでよいから大
ずかみなところを聞かしていただければ幸いだと思います。

それすらもわからないということなら結構でござ
います。いずれ一千二千がまとまって百万になった
のだからよろしうございます。お答えできなければで
す。

市長(田村利男君)お説の通り一千二千がまとまってそ
ういうふうになったのでございましてそれ以外な
にもありませんので御了承願います。

三九番(松本藤太郎君)次増の時改めて一千二千である
かどうか課長さんの机に実際全部なかったのかどうか
この事のこととを。

議長(石井潔君)御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって報告はこいさもちまゝで打切ります。

議長(石井潔君)ついで日程才五陳情書一件を上程いたします。

(書記朗読)

陳情書(防犯街灯)

三番鳩貫壮作君まことに勝手がまゝいお願ひですがぜひ聞いていただきたい。元来防犯協力会ということとは設立の当初にあつて市の一つの事業としてやってもらいたいという要請があつて端を発してやつたと存じておりますが私の記憶違いであらば取りけえますがそういうふうを考えております。

館山市では取りあえず市でなく防犯協力会を作つて

やろうということになつておつたかに考えます。それ
で当初十五万円の寄付をいただいて補助金をいただ
いてやつておつたのであります。私はその当時防犯
協力会に關係していませんでしたがその
当時でさえも防犯協力会ではいろいろ苦心しておつた
ということを聞いております。ところがその十五万円
が移転的経費のゆえさもつて五万月に減額されたので
あります。全くここにおいて財政的に防犯協力会と
いうものがひきつまつたのであります。それで経費を
伴う誰一の事業である。この防犯燈を市に移管
してやつておつたというような状態であります。と
ころが市の態度としてはいささか毎年増えてゆくな
らばばう大な金になるそれはまかりならぬ。そういう
ような事がここに陳情する次第になつたのでござい

ます。なに分防犯協力会の^性質とか状態とかいうものを
お考え下す、とこの陳情書に對し、まゝて御処置あら
んことをおねがいする次第でございます。

。二五番(萩生田七郎君)ただいま三十二番議員からの御意見が
あつたのですが私も実は防犯協力会の発足^当時から関心を
持っておりますが、実際問題として防犯街灯の効果と
いうものはひとつ防犯だけにとどまらず市の美観を
出し交通の利便を与えるあらゆる角度から相当効果
的な存在であつたのであります。たゞ、一、鴻貴議員か
う申さいます通り市の財政事情から大幅な削減を
されその平和機関で困難であつたのであります。また
現在でもかなり損傷機関でありますが一、かゝるよう
に好意的な公共的な事業を推進することは防犯協
力会の事業の大きな要素であるという観点から強力

に地元の希望によつて、一かも警察当局の防犯的な力をよく地域のポイントを固めてこいを選定していただきたい。かようなことでありますので削減を希望いたします。

議長（石井 潔君）本陳情書採択することに御異議ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（石井 潔君）こいでは採択することに決定いたしました。よつて本陳情書は市長の方へ送付する事にいたします。

議長（石井 潔君）こいより一時まで休憩をいたします。

十二時十分休憩

一時三十分開議

議長(石井潔君) 午後の出席議員数二十六名、少
り休憩前に引継いで会議を開きます。

議長(石井潔君) 日程オ六議案オ三十三号を上程いたしま
す。

一八番(鈴木市蔵君) ただいま議長さんから五時半という
語があったんですがあとの会議もありますので
皆さん速断で御審議をねがいたいと思います。

(書記朗読)

議案オ三十三号 市道の路線と一部廃止するについて
。建設課長(新井重助君) 議案オ三十三号について御説明申上
げます。

下の畧図をご覧ください。斜線になっており

ますのが本件の道路廃止をしようとするものでありまして左のこの広い幅の道が上に通っておりましてこの道路の用通により斜線の区域が非常に一般の通交がございまして本道路の一部を廃止しようとして上程した次第でございます。

○議長(石井 梁君)御異議ございませんか。

○二九番(松本藤太郎君)館山小学校ですわ(「左様でございます」と呼ぶ者あり)い高さんの所から広い道路ですわこれを廃止してどうなるんですか(「斜線の所が廃止になる」と呼ぶ者あり)大野さんの前あたりですわ(「大野さんの前です」と呼ぶ者あり)これは市道を廃止してあとどうなるんですかいま一つはあつてこれは大分今利用していると思いますすが周辺の人は大体承知でありますかどうか。

二四番(大野清五郎君)本件につきましてはおかちとつ
け加えておきたいと思ひます。

ここの道路はごく利用が少い。それに変わる区道が出来
ておりまして最近この道路の利用が少なくなりまして
地元の要望としては盗難にあり密会地が多くなり
非常に不安を感じるのであります。そういう事が
才一の原因であります。それと才ニ点として一七一
番地のを無条件で買収してもらつた。ここにある
通り三角になつております。これをとつた時これ
を借りればくれるといふような市の申合せでいた
つて全面的に賛成しておりまして異議ありません
ん(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井翠君)御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(石井深君)御異議な—と認めます。

♪って本案は原案通り決定いた—ました。

。議長(石井深君)ついで日程オセ議案オ三四号を上程いた—ます。

(書記朗読)

議案オ三四号 道路敷工地球附收受について

。建設課長(新井重助君)議案オ三四号について御説明甲上げます。裏のページを御覧わいします。

畧図で御説明いた—ます。が、館山驛を経て日東交通の前が起点にな—て鏡浦亮に至る路点を都市計画で市の単独事業と—て本年当初施行することにした—ました。—かるにこの工地球を飯田よねさんが道路敷地になります。定地百十三坪を合六勺を寄付する

申出がございまして、それでこれを寄付していただきます
て本線の道路を完成したいと考えております。

議長(石井潔君)御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り決定いたします。

議長(石井潔君)ついて日程オハ号議案オ三五号を上程いた
します。

(書記朗読)

議案オ三五号 館山市婦人会館設置条例制定について
教育委員会庶務課長(鶴沢貫覚君)議案オ三五号について御
説明いたします。

これはかねて予算議決をいただいております婦人

会館の建設設置の条例でございます。

オ一條が目的オニ條がこの建設の名称と所在地オ三
條は管理を教育委員会が管理するということに決定
いたしまして細部にゆたりましては規則に委任
いたしたいと思うのでございます。

議長(石井潔君)御質疑ございませんか。

(異議ナシと呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ナシと認めます。

よって本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君)つづいて日程オ九議案オ三六号を上程いた
します。

(書 記 朗 読)

議案^オ三六号 館山市婦人会館建設工事請負契約の締結について

。教育委員会庶務課長(鵜沢貫寛君)議案オ三六号について御説明申上げます。

この図面にございますように婦人会の意見をよく聞きましてこのように設計いたしましたもうでございますが会館の坪数が七十二坪会場が三十六、五坪合計坪数が百八坪五合でございます。この他に電燈設備と水道設備でございます。電燈設備は会議室に蛍光灯が四灯二階の結核式場と書いてありますところ六灯、応接室に一灯合計十一灯それから普通電灯が各室に合計十八灯つけるようにしてございます。それから水道は階下の便所と洗面所と管理人の各所とこの三ヶ所に水道を設置いたします。

屋根は瓦ぶきでございます。単価が二万七千六百円という設計でございます。十四日に現場説明をいたし

まゝして十六日に入れた。まゝした結果最低の伊藤松
名と契約した。たいと思ふものでございます。指名い
た。まゝした業者は六人でございまして伊藤松次
対馬義一、関方次郎、島野光治、計岩尾、宇山文二
の六名を指名した。まゝして競争入札をいたしました。
た。

○三番(嶋貫忠作君)指名競争入札で契約金額が三百万円に
なつたという事の間に變な感があるんですがこの
請買入札が公正に行われたかどうかということに
ついてものと詳しく御説明がございます。

○教委庶務課長(鶴沢貫覚君)助役さんに御立合がございます
して公正に行いました。

○三番(嶋貫忠作君)助役さんに立合ってもらつたから公正
にこういう程度でどういふあいだ公正に行つた

かぞいを話してくわいということですよ。

教委庶務課長(鵜沢貫寛君) 結局入れの方法でございす
 すが始めに入しましたれが予定価格より大分上回
 っておりまして入れを四回やっております(四回や
 ても五回やっても同じ事) これはあなた方が麻薬
 にかけているといえはかけられているようなも
 ので四回やっても五回やっても同じ事但しこゝろに
 引れというのがある、三百万円だから三百万円出
 してしまつて、それとも二百九十万円とか七万とか
 こ切つてあったものなら、そういう点について細かい
 点をお伺いしたい、甲上げておるのでございま
 すと呼ぶ者あり(甲) 甲上げます、引れが三百万円
 ですよ。

三番(嶋貫壮作君) 三百万円の予算が廻んであつて三

百万円の引札を出しているのもどうかと思うのであります。すが、こういう点について将来はもと、と夢中になつてや、ていた。ださ。たい。

議長(石井深君)御異議ございせんか。

(「異議な」と呼ぶ者あり)

議長(石井深君)御異議な」と認めます。

よ、って本案は原案通り決定いたした。

一時五十分休憩

一時五十分開議

議長(石井深君)休憩前に引継いで開議を開きます。

日程才。議案才三七号を上程いたします。

(書記朗読)

議案オ三七号 館山市財政調整基金に關する条例制定について
。総務課長(克戸貴君)議案オ三七号について申し上げます。

政府は五月三十日の閣議で地方自治法の施行令の一部を改正することとを定めまして六月一日から施行いたしたうでございます。この内の改正内容につきましては従来は財政剰余金につきましては剰余金の全部又は一部を基本財産に編入することができるところにうふうになつておりましてそのを改正によつて基本財産又は積立資金に備入することができるところに改められたうでございます。果におきましては各都市町村が財政的にだんく好転してきてまいりましてお、おね年々黒字を生じているという現状であるのでこの黒字になつた分を最後に繰越財源として使つてしまひないでこの際自治財政法で定めおいた方が

今後災害その他やもう得ない支出のある場合のほかは
交付税の額が基準財政要額をいちどろくこえた場合
にはその超過額の一部を財政の健全な運営に―する
為に積立金を―しておく、こういう具合に積極的に指
導涵養してあるのでございます。

よって当市におきましても県の指導に従いま―て
新しく本条例ももうけま―て本年度から積立金
を開始しようというものでございます。

つぎに活用について申し上げます。

オ一条は支出目的を規定したものでございます。

オ二条は積立の種類に關するものでございます。オ一
項では~~地方財政法~~^{地方}財政法のオ四条の三にいうところ
の超過額の一部を積立てるという規定でございま―
てオ二項はこゝから生ずるところの法定果実及び指定

寄付金をも繰入れるものであります。

オ三条は基金の指途方法に固めてまいりましたものでございましてオ四条はこの管理の方法について定めたものでございます。以上でございます。

議長(石井潔君)本案に対して御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り決定いたしました。

(二時四十分休憩)

(二時五十分開議)

副議長(い谷無違君)休憩前に引続いて会議を行います。

日程カー一議案オ三八号を館山市健康保険運営協議

会委員委嘱についてを上程いたします。

(書記朗読)

議案オ三八号 館山市健康保険運営協議会委員の委嘱について
。保険課長(唐沢貞太郎君)議案オ三八号について御説明申上げ
ます。

本市の国民健康保険運営委員会が来月七月十二日
に任期満了になりますので新たに九名の者を委嘱
いたしたいと思います。提案した次でございます。

なお七月十二日で任期満了になりますものは被保険
者代表では船形の山梨貞一郎さん西岬の本田兼吉さん
九重の和田守氏さんつぎに医師齒科医師又は薬剤師
を代表する委員のうちで石井潔さん白幡静天さん
古川齊さん公益を代表する委員のうちで満期になり
ましたものは北条の吉田十郎さん那古の関万次郎さん

豊房の石井隆巖さん 交替に九名の方を新たに選任
いたしまして。その経歴内容経過を申し上げます。

被保険者代表でありますところの竹山克己につき
ましては衆形の枡塚で現在商業をやっております。
坂井の吉田と一子さんは西岬の婦人会長をやつて
おる方でございます。九重の須田徹さんにつきま
しては農業でございまして社教委員をやつておる
方でございます。

医師 歯科医師又は薬剤師を代表する委員につ
きましてはすでに御存知の事と思ひますので略させ
ていただきます。

公益を代表する委員につきましては川名房吉さん
が民生委員消防団長をやつておる方でございます。
神戸の佐野一天さんにつきましては神戸の農協の組

合長でございます。つぎの南条の鈴木はなさんにつきまゝでは豊房の婦人会長でございます。以上で説明を終わります。(異議なしと呼ぶ者あり)

。副議長(小谷無違君)異議ないものと認めまゝして本案を可決いたします。

。副議長(小谷無違君)日程が一二議案才三九号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才三九号 西小學校講堂寄付收受について

。教委庶務課長(鶴沢賀寛君)議案才三九号について御説明いたします。

西小學校の講堂は同校の講堂建設委員長田辺松太郎氏によりまゝて地えにあつて建設中で

ありまして六月十七日に後工いたしまして別紙写
しの通り寄付の申出がありましてたのでこ小を収
受しようというものでございます。そこにございま
すように講堂は木造建厚型スレートぶき平屋
でございます。建坪は六間の十一間で六十六坪
でございます。以上でございます。(異議なしと呼ぶ
者あり)

○副議長(小谷無違君)異議ないものと認めて確定いたし
ますことに御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○副議長(小谷無違君)異議ないものと認めて本案は確定
いたしました。

○副議長(小谷無違君)つぎは日程才一三議案才四〇号を上程い

たいます。

(書記朗読)

議案才四〇号 館山小学校敷地買収について

。教務庶務課長(鶴沢貴寛君)議案才四〇号について御説明申上げます。

館山小学校におきましてはPTAにおきまして
学校図書館を建てるための適当な敷地の場所が
ございませんで別紙図面の通り学校の内の右側
にございします四枚の^エ地を購入いたしましてここに学校図
書館を建てるというものでございます。購入価格は反
当り十五万の割で購入したいと考えております。(「異
議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(小谷無達君)異議ないものと認めて確定といたしま
す。

。副議長(小谷無違君)つづいて日程才一四議案才四一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才四一号 館山市立館山高等学校敷地買収について
教委庶務課長(鵜沢貫資君)議案才四一号について御説明申し上げます。

館山高等学校の屋外運動場は現在千坪でございます。高等学校の必要坪数は四千七百八十二坪でございます。まして今日購入しようという土地が七百一十四歩でまだ必要坪数に達しないわけでございます。それで別紙圖面の通り学校の北側の田を今回購入したいというものであります。赤線でかこんである二枚は国有地でございます。ましてこの分につきましては賃貸契約をしようというものでございます。

その他の斜線を引いてあります土地は反二十四歩を
今回百六万二千円で購入しようというものでござい
ます。一反歩十五万円の割でございます。なお申上
げますここにあります購入価格の百六万二千円はP
T Aの寄付金をもって財源にしたいと思ひます。
○三三番(嶋貫壮作君)PT Aの寄付金をもって財源になせると
いうことであります。話をききますとPT Aで土地
をかって寄付をするという話をきいたんですが、ちよつと
逆になります。がその実はいかゞですか。

○教務庶務課長(鵜沢貫覚君)PT Aは法人でございますので
実際の土地の所有者になりませんので結局金はPT A
で出しますが登記その他の関係がございますので直
接市が金さうけ入れて市が買う事になります。

○三三番(嶋貫壮作君)さうしてその交渉は完全にとげらひていま

すか。

。教委庶務課長(鵜沢貫寛君)承諾書を頂戴してあります。

。三三番(嶋貫忠作君)その点よろしゅうございませうが、よくところによると校長が近々果立になるというふうな予想を立ててこの土地の買収を急いでいる事をきいたんですが、そういうなにかありますうか。田ですからすぐうめたてなければならぬ。さういうふうな考えておるんですが、この点の費用についてどう買収なさるんですか。さういう計画を合せて持つておるかどうか。

。教育長(工藤和平君)先ほどの質問に対してお答え申し上げます。

校長の果立云々ということとは全然ないと思ひます。これは果で議事を止め市に諾つてきまるのであります。が、いまだなんらさういふ話もございませぬ。常識からいって、まずと来年度の三月まで異状はないとさうい

うふうに思つてあります。(「その点はわか、たんですがもう一つ」と呼ぶ者あり)

。教育長(工藤和平君)またその計画はまいておりません。(「わかりまーた」と呼ぶ者あり)

三番(望月暉作君)議案説明をまいておりますとここは校庭になるのであります。が購入価格が百六万でこれは全部PTAからの寄付金によつてやるこういう事なんです。が当初予算の市長の方針を伺いまゝて議員からも質問がまゝたが完全にPTAに依存してゐる形になります。が当然校庭の面積については基準がございましてこの基準を立てるために市の方で購入なく、てPTAに依存したこういう事であつてはいけなゐと思ふのであります。でさうだけPTAの支出を過剰にしないようにいたゐたいとかように考ゑてあります。

す。

○市長(田村利男君)エ地を買ってもういたいという事はただここで生徒が運動にこまるからPTAで運動場を広げるかううめたてぐらいいは市でやってくれないかとたのまれたのであります。それにつきまます見当としてはうめたてればやはり百万円以上かかりますので百姓はあたえませんでもっと正確に申上げ^{ます}ゆ^えなうば三年計画あるいは四年計画ぐらいですこーず、うめて完成を期したい。それよりも今小型四輪車運搬車を買いますてドブ掃除のエ汚物でないドブの土の捨場をここえうめたうハエがたからずに高くなるかうこいう方法もあるという形で現在農地に使っておりますけれども農地法の手続きをとっておりませんけれども農地委員会の承諾を願ってドブの砂を投げてそー

てまたこれを全部百万買ってしまわないでぼつくうめ
るだけか、たういいじゃないかという意見も出たんですが
やはり全部買ってしまわないと気の変る人がいるとい
けないというので買うことにしたわけでございます。
個人的にいますれば私も被害者の一人でございます。

○三番(鳩世貫壮作君)ただいま市長のお話で良くわかりました。
なるべくその方針で、やっていただきたいと思ひます。
途中で変更されてぼつくうめたてるとまた(うていは
四年のところを三年でやるかも知れませんが一年で行う
ことは無理だとは堅くいつてあります。て校長始め職
員は承知ですと呼ぶ者あり)わかりました。

○二番(望月暉作君)四一号議案は賛成いたします。但し今
市長さんが土地は全部PTAが買収するといふので
市の方では、ト、くり三三年かまえてやろうといふよ

うな事なんです。私は「下A」が進んで寄付の甲
 本があったので一日も早く基準に合わせたものを作
 りたいという熱意がうだと思ひますので市の財政が
 百も豊でないということもわかりますけれども一か
 ーなばうこういう好意のある寄付の申出であります
 ので二三年といわず早くグラニドとして使用できる
 ようにしていただきたいことを特におねがいして賛
 成です。

○三四番(高橋文治君)ただいま議案の説明に当り十五万とい
 ておりますが非常に私は山岡部の九重あたりと比
 較した場合に非常に安価のようにならうかと思ひま
 す。安いのには結構ですがこゝが田の時価相場です
 か、参考
 までは。

○教委庶務課長(鶴沢貫寛君)反当り十五万はこの辺の土地

としては安い価格です。特に学校の敷地ですの……
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井 潔君)つづいて日程才一五議案才四四号 議案才
四五号を一括上程をいたします。

(書 記 朗 読)

議案才四四号 土地買収について

議案才四五号 建物移転補償料並びに休業補償料支払について

市長(田村利男君)館山市庁舎建設にともないまして敷地の
件でございますが過半数議会におきまして現在市役
所庁舎のある付近に土地を求めることが好ましいと
協議会全体の御意見でございますので市長はこ

の意見に従いまゝて鋭意土地の獲得に努力されてお
 いてございましてが不手際ではなく早急にまいりませ
 んが吉田漢具の工場の一部吉田漢具と交渉中色々雑音
 があつてしまつてと安いところがないかというようなお話
 が神明町の方々が御親切に投書してくれたりなんか
 まゝてこの前の協議会の時など吉田漢具の地所でない別
 な土地をという話も一応協議会では申上げましてたが
 の後更にいろいろな情勢の変化がありましてたがめ
 結論といつてしまつて吉田政弘個人の地所並に吉
 田政弘が経営する会社の建物の両方を建物と別居
 して土地を必配する。買収するという交渉になりま
 したのでその鋭意事務的に自分が折衝してまいり
 ました。ところが両者月満なる協定が打出さ小まゝて土地の
 価格が四百四十万移転料並に保銀料として二百二十

万と^{補償}課料が九〇万合計七百五十万で新地として十一月末日をもつて必ず新地^{新地}として二千三百三十坪の土地を役所で買入るといふ事を両君で調印いたしまして議会の承認を認める次方でございます。

議長(石井 潔君) 議案オ四四号 議案オ四五号 御質疑ござい
ませんか。

○三番(伊勢仙之助君) 金の支払の期日についての問題です
が過去の色々な例をみますと移転に際して金を支払
って移転しますという契約のもとに支払ったにもか
かわらずその右いつも泣きとりといひますかそ
ういふものをして契約が高いとか少ないといふ事
がおうおうに起るんですがその点について移転
の完了をまわっているのかそういうような形で支払い
ますかそれとも移転の事前はその金を支払ってしまふ

とかそういう点を非常に心配するんですが、この点についてですね十分自信がありますかどうか市長さんに御答弁をお願いしたいと思います。

○市長(田村利男君)お答え申し上げます。

いざこざの起る事ばも、ともこういう場合懸念されるんですが契約というものは十一月末日まで全部の建物が移転させて新地としてたときに七百五十万の現金をまねするところというふうな契約するわけでございます。一かこの前に立ってある自動車会社など他人のオミヤのまどってありますので総務課長をして説き上げさせます。吉田漁具並べに協豊自動車修繕株式会社等の契約につきましては四通談上げます。

○総務課長(免戸貴君)朗読いたします。

始め吉田政弘氏個人からの土地に対する誓約書と
それから吉田さんに対して協豊自動車株式会社から
出てきた。契約書とそれから吉田政弘氏が吉田漢具
工業株式の建物の移転をさせるという契約書とそれ
から吉田漢具からの建物移転についての契約書四通がで
てあります。 朗読します。

誓約書 貴市に売却する土地 鎌山市北条一二四五番
の内の一ニ三坪五合は現在協豊自動車工業株式会社
代表取締役在原紀典氏に貸付しておりますがこの
解約につきましては別紙同社からの誓約書とありに
なっておりますので私が責任をもって必ず昭和三十三年
十一月三十日までに移転させ新地として貴市に売却
します。なお同社が期日までに履行しなかった時は直ちに
撤去されることに異存のない旨を確約いたして居るの

館山市議会

で当市の費用をもつて実施しても異存がありませんのでここに誓約いたします。昭和三十三年六月 館山市北条二八二番地の五 吉田政弘 館山市長 田村利男 殿
つゞは協豊自動車から吉田さんに対するものでござい
まして。

誓約書貴殿から借用の土地 館山市北条二四五番の一つ内
一三三坪五合の返還につきましては昭和三十三年十一月三十日ま
でに一切の建物を撤去して返還することとを誓約いたします。
なお万一期限までに不行きなかつた時は直ちに貴殿に
於て撤去することに異存ありません。昭和三十三年六月
館山市北条二四八番地 協豊自動車工業株式会社代
表取締役 在原紀典 吉田政弘 殿。

つゞは吉田さんから。

誓約書 貴市に売却する私有土地 館山市北条二四五

番の一及び同二一四八番に建造されている吉田漢具工業株式会社有建物一切の同所外移転につきまゝては、拙者において責任をもち、て必ず昭和三十三年十一月三十日までに移転させ更地として貴市に売却します。昭和三十三年六月 館山市北条一八二二番地の五 吉田政弘 館山市 村利男 殿

最後は吉田漢具工業からのものです。

誓約書 館山市北条一八二二番地の五居住吉田政弘氏所有土地 館山市北条二四五番の一及び同所二一四八番内の幣社有建物一切の同所外移転につきまゝては株式会社総会の議決により昭和三十三年十一月三十日までに土地賃貸借解約の上移転することと誓約いたします。なお万一期限までに履行できなかつたときはただちに貴市において撤去することに異存なくこれに同意する費用一切は当社

にて負担いたします。昭和三十三年六月、館山市北条一
四五番地吉田煥具工業株式会社代表取締役社長吉田
政弘、館山市長田村利男殿、以上です。

○三三番(嶋貫壮作君)　　そういう主張な誓約書が出来てい
ても間違が出来るときは間違が出来る。間違が出来て
迷惑するのは市といわなければならぬのであります。
そこで伊勢議員はその向うの誓約が確実に履行さ
れるまでその代金の支払をしないかどうかという
点について、市長さんに意見を言いたいものだとい
事は市長さんの言明でありけるわけです。助役さん
とかいふという事はないと思います。………と思いま
すがその肝心なところの御意見がないのでその点
をいふのは、きりきりしていた方がいい。たとえば更地
にするまでは市の金は絶対おかない。………その確信のほ

どうもいておきたいのが伊勢さん考えたと思っ
てあります。私も同様に考えますのでそういう事
に對する言明をおねがいします。

・市長(田村利男君)と百五十万の支払でございしますが定額と
して運賃などの場合は半分出ますと四割支払
うと色々あります。市長といたーまーでは向うでは
相當の希望があるようでございます。移転一始めて
完全に移転する見込みがたう三百万支払ってほー
いという希望があるのございます。が市といたーまー
ではなるべく(市)迷惑のかからないみとあーがつかな
ければおれないという方針です。

・三番(嶋貴作君)みとあーがつけばおうというのが問題
をこどらせる原因になりはーないか。とこう考えるので
あります。それで絶対におれないという事をあーや

るのはいへんいにくそうですね。すべひとつそうあッーや
 っていだきたいと思ひます。なぜならば我々の配す
 ると同様に多くの市民が配してゐると考えますので
 その実をいふと十分お察しの上なるべく御発言下さい
 たいと思ひます。

○三番(い 浜光義君)ただいま市舎の敷地の問題で色々
 御意見があります。これを今嶋貫議員が言ひいた
 通り皆さんに必配をかける必配するのは当然の事で
 あります。が家屋を移転するとそれから休業の弊害が
 ういうものに全然出来てしまふまでおけなひという事
 かどうかと思ひますが、おけなひでなく金が必要ならば移転
 も出来ない。そうすると今年度の仕事に間に合はない
 そうすると起債の方にも影響する。こういう事になり
 ますと庁舎を建設するといふことは確定してゐる。

市長さんとしては何人とかいて何うの要求の三百万
円市の金でなくなんうかの方法でもって何うの西女
求通りでなくともいい移転の出来る金額が何うで獲得
できる方法をとってやる。こういう事でことを進めなけ
れば本年度の末に間に合わない十一月三十日までに移転
するとそれ小かう伸びると三十三年度の内にあえない。
こういうことになりますか。一つ市長さんは自分の
腹で移転のできるような方法をこういってもらいたい
こういうふうに考えてあります。

○三八番(伊勢仙之助君)私は色々配することはこの中にや
はり協豊自動車という一つの所有者があるように
考えてあります。がそういうものとの契約というものが
やはりここに書いてないんで責任という点について吉
田さんが實際協豊の関係までも責任を持つからという

形でここに述べているか、こうにみえますが、そういう

からみあわせが、そういう配分も出てくるんですが、移転

の^{補償}料休業^{補償}料というものは、この中のケースで始め

ておてゐると我々には思ふんですが、もちろん九〇万^円の算

出に、つまりしては、何日間休むという点が出ておいて九

〇万の金が一応出たと思ひますが、その移転の費用に

対する不足といひますか、少なくとも吉田さん程度の

企業のあるほかならぬ移転費の給収支といういは、ここ

からでゐるんじゃないかと思ひておりますが、利息の

九〇万、算出の期間はどう程度の期間で九〇万円

算出をしましたか、それとくらひ合せて、わずかの率

というのも考えられるんですが、移転に要する休業

の補償料算出の基準というものが、何日間位で算

出をしましたか、その点をきかいていただければ、移転

金のかかる費用という問題については、さうして心配する必要はないんじゃないかと思ひますが、その点について御答弁をいいたいと思ひます。

○市長(田村利男君)補償料の件でございますが、一ヶ月三万圓三ヶ月として九十萬 づづいて甲上げますが、金額は、おれりないは市長の権限において善処いたしますから、御承知をいいます。それは市の金を出さない。この二つの事をまもり、嶋貫さん、もうさういふことを、今、発言しようとなさておるのですが、さういふ忠告を、観りみまうして、市の金でない方法で、企業の新転は、三百萬もかかるのでございまして、この心配は、市長に任せていただきたい。市の金庫から出さないという事を申し上げます。○三番(嶋貫忠作君)市の金庫から出さないという事は、結構ですが、市の金庫から出さないばかりでなく、市

へ迷惑をかけないという意味において市長さんのリム
うーきでも、た行動をとらんことを希むわけです。
市長さんがでかい腹でおいの責任をや、てやるこうあ、
ーやれば我々は黙して心配ーない。

。市長（田村利男君）私に言、たのは鳴貫さんと同じ意味です。
議長（石中 梨君）他に御質疑ございませんか。

。二九番（松本藤太郎君）建物で一番最初に出てゐる二一四坪の
作業場こいが協豊自動車の作業場なんですか。

。市長（田村利男君）その裏は御了承折角一日一万円一ヶ月三十
万計算して変になりますね九〇万円の内の何月かど
自動車会社を吉田さんが移転せるといふ事でござ
います。吉田君の見解において移転せるといふこと
だけで。

。三番（吉田勇治郎君）ただいま市長さんの答弁において

今ちょっと疑問をいだくんですがお尋ねします。が支払の方法であります。が広義の皆さんに迷惑のかからないほかの方法で支払うということとは当然迷惑のかからない目的のように所属がするんで公然とこれは市長として出してーかるべきだと思ふ。それを公正な立場でなくしてほかの方法でもって無理して金を出すというこの考え方が私には市長さんの答弁がなんだかサッチャクニでいるんではないかと考えてある。当然迷惑のかからない状態であれば目的があるんだからその目的の爲には当然支払うべきだところ考えますがこの点の見解をいとお市長さんはどうかと御答弁をお願いしたい。ちよと私の見解はいますでのちた意見と違ひます。がそれを伺います。

○市長(田村利男君)私の答弁下手でございます。が吉田さん個

人の費用で移転させるように甲上げた次方でございます。

。三番(吉田勇太郎君)さうその御質問に甲に三百万円位は

いというふうな甲出があつたようですが、たゞしくど

ういうさう違ひかわりませんが一応なるほどこ

ういふたようなものを大工場を移転するには資本

も当然洋うそ小を目的のためにやらせるのを吉田個

人の力でも、て移転させるということとは市側とすれ

ば一番安全なやり方だけ小ども目的を安全に―なけ

ればこの目的というものは信じてやるべきが当然だと思

います。ほかの方法で支払うということとは吉田個人

から支払わせることとまた今度はずうと見解が交つて

たんですので了承します。

。議長(石井潔君)御質疑でございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よ、て本案は原案通り決定いたしました。

。議長(石井潔君)つづいて議案才四二号を上程いたします。

(書 記 郎 読)

議案才四二号 市有財産の処分について

。総務課長(兒戸貴君)四二号について御説明申し上げます。

別紙畧図で斜線で示してあります百七十三坪三合四勺の
土地でございます。これは船形の山本四郎氏が市有地
の隣接土地を昭和二十七年の四月二十五日に上須賀の飯
塚トミと山下より子から買、た際この分を含めて買受
けてあります。て自分の私有地として使用してあります
。たが昭和三十一年度の九月に至ります。て市有地と国

有地の境界を決定いたしましてた際にエ本出張所で
 従来市有地はもつと上に上がるんだということとで
 市有地と国有地に境界並びに私有の土地との境界
 が実施されたのでございす。そしてその土地につま
 しては山本さんもこれを認めましてその市有地につ
 てはぜひ従来から自分の私有土地として考えてお
 たいので改めて市から買い上げたばと申さるゝござ
 います。それで以上のような特別な事情もございす
 ので今回源之助に売、た値段と同日の三月二十五
 日で売却しようというものでございす。(異議なしと
 呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)御異議ございせんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて議案オ四三号を上程いたします。

（書 記 朗 読）

議案オ四三号 国民健康保険料率算定の基本賦課総額について
。保険課長（唐沢貞太郎君）議案オ四三号について御説明申し上げます。

本議は保険料のもと、なるべき数字を議会の議決を経て定めるのでございます。詳細に渡りましてはこの裏に別表がついてございますのでこの別表によりまして御説明を順次申し上げます。

まずAでございますがAは昭和三十一年度の給付実績とここに示したものでございます。療養の給付及び療養費を混ぜまして合計件数が給付率が八万六千百

二十二年実数に―――五百十六万六千六百一と三二
 と昭和三十三年度の平均被保険者が三万七千三百十二人
 でございまして、三万七千三百十二を前年の八万六千二百
 十二件を割りますと一人当りの患者にかかる割合が
 出るわけでございます。この受診率が昭和三十三年度に
 おきましては二百三十一%でございまして、総実数を給
 件数で割りますと一件当りの実数が出てまいります
 一件当り五九、九八円でございまして、以上のものをBに
 よりまして算定します。Bは十一月五十銭に一件当
 りの実数と利用率をかけたものが一人当りの療養
 給付の費用額になるわけでございます。千五百九十三
 円でございまして、

つぎに千五百九十三円のAには公費負担が含まれて
 いるわけでございます。この公費負担額を一人当り合

計一萬四千六百六十錢を千五百九十三円から引きますと
實際の療養給付の使用額千五百四十九円四十錢が算出
できるわけでございます。千五百四十九円四十錢に四月一日
現在の被保険者三万七千二百二十四人をかけましてその資産
割合で五〇%でございますのでその半分にいたしましたものが二
千八百七十五万九千九百六十三円でございますが療養給付と
療養を合せて三十三年度の見込額となるわけでござ
います。この療養給付費の所要見込額に予算に計上
してございます助産費と葬祭費をたしますと二千九
百二十二万一千九百六十三円になるわけでございます。こ
れが昭和三十三年度の給付見込額になるわけでございま
す。三十三年度の見込額のうち当初予算のととの行い
ました一般会計繰入見込額三百万を引きますと二千
六百二十二万一千九百六十三円となります。これが保険

料の基本賦課総額となるわけでございます。これを
 一世帯当りで割りますと三千二百三十三円となりま
 す。又被保険者平均一人当りにみますとこゝが七百六十
 三十三銭となるわけでございます。この保険料基本賦
 課総額の本三十三年度のその保険料賦課総額と三十
 二年度の保険料基本賦課総額との比率は前年に比
 して一割二分五厘の増となっております。なお基本賦
 課総額を所得割三口資産割二口平坪割三五平等割
 一五にわけてわけまして市民税見込、固定資産税
 見込被保険者世帯数でわけてよせましたものが、こ
 の料率の見込額となつてゐるわけでございます。市民
 税は確定しておりませんのでは、そりしたことはわか
 りませんですが大体総額の八八％で所得割につぎま
 して十四％の減を参考として算定したものが六百

五十九万二千九百二十九円これによりますと現年が百分の九七に比べまして百分の百十九、三一となるわけでございます。これはあくまでも見込みでございます。資産割は現在すでに資産を合計されておりますのでそのままをここにたしまして割ったものが百分の十三、五三前年は百分の十三でございます。均等割につきましては二百四十七円二十一銭前年は二百十六円でございます。平等割につきましては四百八十四円九十三銭前年は四百二十七円でございます。以上簡単ですが説明を終ります。

〇八番(鈴木市蔵君)という理由で我々の商売は医者にかゝる率より骨継に行く方が多いその場合骨継に六千円とちんとかかゝても事実それを作つてあるけれども半分の補助が虫来なく、て六百円か八百円――

か市の方としては補助をしてくれないこれはどうい
う理由かその理由を御説明ねがいたい。

。保険課長(唐沢貞太郎君)接骨医師につきまゝては一般
医師とは均等の扱いを保険ではしてないわけであり
ます。すなわち一般医につきまゝては療養担当者
という名前がついているにもかかわらずこれは
正規な療養担当者というものはなっていないので
あります。なぜかと申しますと結局医者でないか
らであります。これは健保でもそうです。国保で
も同様でございます。その内容につきまゝて大体
異なる点はまず入院料は全然保険では認められな
いのでございます。これは医師の場合ですと入院が
すなわちなおすための入院でというふうには現在考
えられているわけでございます。柔道接骨師の入

室ということばでございますが入室ということとは単に
室を借りるという事のみにあつてこのために現在
は保険の給付の中に入っていないわけでございます。こ
は国保ももちろんでございます。健保ももちろんござ
います。なおその他にたとえば初診料等でございますと
国保、健保につきましては四角という初診料は違つてお
りまして四角を十一月五十銭でやりますと大体四六月に
なるわけでございます。いまは健保では改訂になりまし
て百円未満につきましてはその未満の額百円以上に
つきましてはその額というふうに初診料はたゞく接
骨師のような場合にはこれは初診料につきましても
自由でございます。まあ接骨師の甲合せは自分の自
由でございます。百円ときめようが二百円ときめ
ようが現在のそれを阻止することもございませんのでた

まゝ柔道整復師に頼った方が百月の初診料を払って貰う場合、我々が計算するのは四六月になるわけでございます。その四六月の半分と百月との計算であります。すうでどうしても接骨師にかかりますと割高になるということになります。まあこれは接骨師が悪くないのではなくては、さう甲りますまいはいさぎになるかも知れませんが、房州だけの現象なわけでありまして、接骨師にかかるといふことはよそには見うけないこと、で房州の特徴であることも一つの原因となります。いま一つは専門の整形外科、さういふことがあまりよくないということも一つの原因になるかも知れません。以上で説明を終わります。

○八番(鈴木市蔵君)これは一向一答でおねがいします。

この場合に職場保険なんかは当然認めておるんですが

その職場保険の健康保険とはただ本人のだけだ負担額
と又市の方の負担額と違ふと思うんですがどうい
うわけで片方認めて片方を認めないかこの理由

。保険課長(唐沢貞太郎君)職場保険にあきましても療養給付
として認めていないわけであつてお医者さんが變つて
委任で療養費の扱いを當然とつてゐるわけであ
りまゝであつてお医者さんが變つて皆さんかう印をい
ただまゝであつて必ず金をとつてゐるわけであります
それはお医者さんは請求書の裏に委任による印
がちゃんとあつてありますから健保の方々
においても必ず印をのけてもらいたいとあるわけ
でございます。(「医者」の印と「呼ぶ者あり」いや被保険
者の印です。かゝつた人の印です。(「かゝつた人の印があ
ればでございますか」と呼ぶ者あり)いやかゝつた人の

印を借りて健保では委任払いの形をとっているわけではございます。国保ではそういうことではなくて一人一人の請求によつてやつておると形式的にただ違ふ、本質的にはやはり療養費の主たる形態をとつておるということです。(現在職場保険のような形をとっている所ではと呼ぶ者あり)これは県下統一して国民健康保険でそういう形にとつと現在動いているのでありますがいまのところ柔道整腹師会がたゞ二つにわかれているわけでございます。現在一本でございます。ませんでなか二つの方が交渉が行ふにくくてまだ実施されていない。国民健康保険の連合会ではこれを実施しようと現在活動中でございます。

○八番(鈴木市蔵君)これはとして、鎌山市健康保険に對しての国民条例がなつか作つてこの問題に對しては普

道の医者にかかるような方法をとらせんか。その
点とつ伺います。

○保険課長(唐沢貞太郎君)現在県下全部接骨師として特別
に契約を結んでいるところはございませんでですから鑑
山市におきましても特別にまあ医者並という事は
もちろんでござせん—医者に準ずるというふうな
契約するということは現在考えておりませんであ
くまで県一本になつてくれさやるまで持つという
ふうに考えております。

○八番(鈴木市蔵君)ではそれから接骨接骨医の方と話なんで
すが県の健康保険と市町村の健康保険と割合が違
うという意味はどういうことか。(「県の健康保険と
市町村の共済組合との違うというのですか」と呼ぶ
者あり)そうです。それは二通あるそうです。県

から指令のでたものと国保からでたものと二通ある
 そうですね。

。保険課長(唐沢貞太郎君)果からでたものは知事が変
 て調定していただきますのでございします。国保は国保自体
 で調定すべきなんですが、現在調定していないという
 ことでございまして、市町村共済組合につきましても、
 ちよつとわかりません。

。番(鈴木市蔵君)では最後に一つ、館山市としてこゝを接骨
 院にかかつた人を普通の病人と同じ待遇がでるかどうかで
 ないか、その実をいふとつ。

。保険課長(唐沢貞太郎君)現在では医者と同一待遇はできないと
 いうことになっております。ただ、医者なりの契約では
 もちろんなくある程度の契約はできるものと思つてあり
 ます。(了解と呼ぶ者あり)

。二番(吉田勇治郎君)将励金のことですが私があくわてきたのでよくわかりませんが説明をうけたまわりたいことは予算に編成した当時のと　こんだ確定を出したかわるところの予算をいとおききたいと思ひます。保険課長(唐沢貞太郎君)予算の時提出した方法でございますが予算の時あくまで十一月までの実績によりまして計算してしたので一応形式的に違つた点があるわけでございます。これは一件当りの受診率にしろ一件当りの費用額にしろあくまでも見込みであげてありますのでその点だけ違ひありません。なお数字の上で違つてゐることは基本保険賦課総額を予算の時二千六百八十一万一千二百二十円としてございまして今度は二千六百二十万一千九百六十三円など六十万ほど減つたことだけです。

○二一番(吉田勇路郎君)所得割 資産割 均等割 平等割と四つの賦課基準の中ですれ減った所もある。えん所もあるとくに健康保険が非常に私たちが年中お世話になつておりますが約六十円近くつくいまれがきておるとこの問題が当初予算には一割四分九厘と前年度予算額に比して一割四分九厘の増を予算に當うれたというようなことを記憶してあります。が今回の上昇率というものは一割四分九厘だということですが、いとなつ納得のいくまでという区分率を改造したんだというところでなくもう一回御説明ねがいたい。

○保険課長(唐沢貞太郎君)当初の上昇率は一割四分何厘で、たが結果的には一割二分何厘になつたのでございまして、それが非常に大きな原因にしていることは年の途中から非常に給付割合が低くなつたこととございます。

なわち十二月一月二月ということが非常に低くなつたと
今まで月平均二百四、五十万位かゝつておつたものが十二月一月
二月で大体三十万、一月当り三十万見当だと、支払う率が
多くなつたので、これが非常にこうたいのバラニスといま
までの見込額よりくずつたといふことでございます。

それから所得割、資産割、均等割、平等割のことと
ございます。が所得割は不明でございますので、あくまで
見込みでございます。それから資産割につぎまゝして
は前年が百分の一・三％でございまゝたが、本年は百分の
一・三・五・三、これは基本が上つたにもかゝり、あま
り税率として上らなかつたのでございます。がこれは固
定資産税の見込額がある程度低いことに原因をさ
らしているのでもございます。それから均等割、平等割
についてでございます。が四月一日現在で算出するたの

二 倉 山 十 三
でこれは確定を——しているわけでございますが均等割
平等割等前年の一割三分ない——四分の数字上では
増になつてゐるわけでございます。

。三三番(鳩貫仕作君)健康保険の内部的關係についてはだ
いたいわけ、たんであります。ただ一つわからない実が
ある。これはいつも私がいう医者との關係であります。
す。お医者さんにかかつてあの保険証をもつていく
と半額になります。が何に何を払つたんだかわけが
わからない。そしてあなたの方ではあとの半額だ
と——うすることについて支払を——しているだろうと
思います。これが正——く行われていけば問題はな
いのであります。がどうも我々が考えても正——く
ないともいえな——い。正——いともいえな——い。仕態に
なつております。その点について私は正——しく払う

という立前からいって、と医者との関係をわかるようにして、もういいと思います。その点に向つて努力してもらいたい。

議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君)しばらく休憩いたします。

。 三時十五分休憩

三時三十五分開議

議長(石井潔君)休憩前に引継いで開議を開きます。

三番(嶋貫壮作君)さうその医者と市の支払との関係につい

て調査委員さんにお返すねーます。

市費を出す以上当然市の調査委員の手にかゝてーかるべきだと私は考えますがいかがお考えでーようか。

○監査委員(関武天君) 嶋貫さんの御質問にお答えいたします。

突然のことで私もちや、と答弁をできかねるんですがこれは補助金とか負担金とかでありますとまあ勝手にやっておりますが物を買ってその代金を支払った場合考えられないこともないーそういう場合正しく支払われておるかどうかを見る事ができれば良いですけれどももう少ー研究させていただきたいと思ひます。

○三三番(嶋貫壮作君) どうもご諦視をお願いします。

。議長(石井潔君)よりでは日程才一ハ議案才四六号を上程
いたします。

(書記朗読)

議案才四六号 昭和三十三年度鑑山市才入才追加更正予算
。建設課長(新井重助君)前例になういまして才出の方かう
御説明申し上げます。

四款土木費の一項の道路橋梁費につぎまゝて工事請
負費四丁三万を追加いたしまして。これはえ相次才
三巴資金で得まゝに金で相次市内の道路橋梁の工事
にかゝたのでございます。本年度は四十三万で布良相
次のはか付近の路線の路面の舗装をせ、この排水
路の修繕総体で全長約七メートルを作りたいと思ひ
ます。

才五款の五項の水産費につぎまゝて修繕料二万九千円

これは工事請負費の方から修正をいたしてまいりました。これは当初修繕費の一節をおとしましてしたので私の方の一節にこまぐらゝ仕事がたくさんございしますのでこの一節をとつた次でございします。

都市計画費の調査費負担金補助及び交付金五万円は千葉県におきまして館山市の都市計画の実態調査すなわち基本調査でございしますがこれを施行するため千葉県都市計画課から少しいりまして。その負担金として五万円の金を受入れるのでございます。以上五万円を計上いたしてまいりました。以上で土木費の説明を終ります。

教委庶務課長(鶴沢貫覚君)お七款教育費につきまして百六十五万六千五百円の追加でございます。めくりまして小学校費におきまして備品費三十三万円追加いたして

まゝした。これは館山小学校の給食用洗條機購入費でございましてこの財源は全額PTAからの寄付金によるものでございます。

二十八節施設費十八万四千五百円の内訳でございますが館山小学校敷地購入費十六万四千五百円これは先ほど議決ぬがいたしました土地の購入費でございます。東小学校敷地購入費として二万円を計上いたしました。これは東小学校の裏に四十坪の空地がございましてそれは一部校舎につかつておりましてその他排水溝と田が少ございましてこれは合併前から無償で借りてゐる土地でございしますが今回地主の方からぜひ購入してもらいたいという要請があります。坪五百円で購入したいというものでございます。営繕費の工事購入費で八万円を追加いたしました。これは電気配線工

事費でございまして、館山の学校給食用洗條機を
 入れるために12の動力を買入るために新たに電線と
 入れなければなりません。その工事が六万円、それ
 から北条の学校の配線中不的確なのがございます
 て、これを変えなければいけない。電燈会社の方から注
 意をされておりますので、この取換えが一万七千円
 ぐらいから神余の学校もやはり不的確配線の工事費
 が三千円合計して八万円を計上いたしております。
 高等学校費の土地購入費として百六万二千円、先ほど
 議決していただきました。議案の請入費でございす。
 幼稚園費におきまして職員手当で四万八千円、退職手
 当を計上いたしまして、たがこれは四月末退職いたしまし
 た幼稚園の助教員田村れい子の退職手当でございす。
 て勤務年限が八年一月でございす。この財源は更

員給の修正したものでございます。

。商工水産課長(羽山房雄君)産業経済費の内六項の観光費に
おきまして十万円の追加をおねがいいたします。そ
の内二・三節の修繕料六万円これは休憩所脱衣所便所
等の小修繕を計上いたします。二・四節の工事請負費
四万円これは同じく休憩所脱衣所便所あるいはアーチ
等の塗装工事費でございます。よろしくおねがいいた
します。

。総務課長(兒戸貴君)十一款の財産費について御説明をい
たします。

今回追加計上いたしましたものは千六百七十一万二千
円でございます。この内財産造成費の内施設費と
して四百四十万計上いたしました。これは吉田政弘氏か
うり舎敷地として買います。宅地坪二千三百三十二坪四

合ニウの購入代金でございます。三十一節の補助金及び補填金として三百十万円を計上いたしまして、この内二百二十万が移転補償費で九十万が休業補償費でございます。休業補償料は一ヶ月三十万三ヶ月分の見積りでございます。オニ項の積立金九百万円を追加いたしまして、この内八百万円が市庁舎建設準備積立金で百万円が財政調整基金積立金でございます。オニ款の財産管理費の内九節の賃金に六万五千円を計上いたしまして、これは現在土地整備等に測量師を雇っておりますのでこの二百十ヶ月分の賃金でございます。それから三十三節と三十五節の修繕料と原材料費でございます。いますべしはちゅう年から引受けました。査察在所が非常に最近いたんでまいっております。特に且置破損等がいちじるしいのでございまして、三十三からこの置

を修理してもらいたいという希望も出まゝたので先般
全部について見まゝとこういすけれども、なつており
ますので今回修繕したいと考えるものでございます。
オ一五款の請支出金の四五万円を負担金補助金として
計上してございます。これは今回館山交通安全協会で
交通事故を防止する目的で交通安全アーチを館山の
駅前にするに依りまゝて更に瀾留橋どけと八幡神社前
に設置する予定だそうでございます。がこの至費が総
額九十九万五千円用ゝますので市に對し、まゝて補助
金ももらいたいとこういう要請がございまゝたので
今回五万円を計上し、次でございます。
又、総額千八百九十九万八千五百円になります。
つぎはオ八について甲上げます。

オ三款の公営企業及び財産收入といった、まゝて四十三

万月を計上いたしまして。これは相次財産の処分
 したものでございますが九十八万月予算にいまだ計
 上してない分を今回計上いたしまして工費財源とい
 いたものでございます。オハ款の寄付金は百三十九
 万二千月でございますがこれは三百三十万月 館山小学
 校給食用洗條機購入費と百六万二千月が館山高等
 学校敷地購入費でございます。これは七反二十四歩を買
 収する予定でございます。オ九款の繰越金で千七百十七
 万六千五百月を計上いたしまして。これは当初予算に
 おきまして三百十四万九千七百三十月をすでに財源と
 して使用いたしましてたので今回繰越たもの、残額を
 計上したものでございます。えほど監査委員の方か
 ら報告のありまして通り繰越金が二千三十二万六千
 三百十四月ございましてたのでこの内今回財源として計

正いたしただけに繰越金は八丁五月を残すだけであ
とは全部必要財源として計上いたしました。以上で
説明を終わります。

議長(石井深君)本案に対して御質疑ございますか。

六番(山本昇君)財産管理費の支出において財産管理費
の内巡査駐在所修繕料の問題ですがこれが現在市の
所有になつております駐在所が何ヶ所ありますか
どうかその実をさかしていただきたいと思います。さらにこの
駐在所が市の財産であつてそれは理償でここに貸し
てあるのかどうかあるいは市でもつてありますと
もつと修繕料がもつとか、ると思ひますがこれを
果の方に寄付して果で維持して保持してもらうよ
うなことが考えられないものかその実もお尋ねし
たいと思ひます。

。総務課長(荒戸貴君)市の駐在所は警察制度が改正いた
 ーまーたとき旧市内の駐在所が全部県へ移管いた
 ーまーたので現在では九重と雄野と豊房と神戸と
 高崎と西岬に駐在所がございます。それから現在で
 はここに駐在している警官が慰償で入っております
 す。これは従来からの例でございます。すうでやはり
 慰償となつております。そういう関係でこの建物
 につまみーては市の財産ということになつておりま
 すのでいろいろと委員が申しますが県の移管につまみ
 ーては又市長さんが議会とも御相談ーまーてか
 りいたーたいと思ひます。(「異議な」と呼ぶ者あり)

。議長(石井 潔君)他に御質疑ございせんか。
 (「異議な」と呼ぶ者あり)

。議長(石井 潔君)御異議な」と認めます。

よ、て本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井 潔君)なおこの際申し上げます。

ただいま伊勢丹之助君より一身上の都合により議員の職を辞職いたしましたという辞職願いが出されました。お諮りいたします。本件を本日の日程に追加いたします議題といたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)御異議なしと認めます。

よ、て日程は追加されました。

ただちに議題といたします。

議員の辞職は地方自治法第二百二十六条の規定により議会の許可を必要といたしますのでただちに採決いた

「たいとぞんどしますが御異議ございませんか。」

その前に辞職願いを朗読いたします。

議長(石井潔君)辞職願議員伊勢仙之助私事このたび一
身上の都合により議員の職をやめたいので許可下さ
るようお願い申し上げます。昭和三十三年六月十九日石井
伊勢仙之助印。以上の通りでございます。

議長(石井潔君)各方に採決いたしたいと思ひますが御
異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

議員伊勢仙之助君の辞職願いを許可することに御
異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって辞職願は許可することに決定いたしました。
この際伊勢議員の御挨拶を求めます。(拍手)

(伊勢仙之助君登壇)

ニて番(伊勢仙之助君)でございます辞職願に對しまして許可して下さいましてありがとうございます。ごさいました。議員を辞職するに當りまして一言のべさせていたでございます。

今回一身上の都合によりまして一身上の都合と申しまして私の身分関係で職場の關係に議員の兼職は許さないことに決定いたしました。明日付で一応身分の変動があります關係上不本意ながら今日辞職願を提出したようなわけでございまして、白づかいやつまでもというふうに考えまして便りける身の切なまというものをひーくと感じているわけでございします。

三年三月余りの間先輩議員諸候の色々な御指導と受けたまひり市当局においては市長さんはじめ各課長さんたちの非常な御参上によりましてさへなりにも議員の勉めを今までやらせていただきましてお礼を申し上げます。

私議場におきまして性質上非常に激しい点もありまして我々の先輩に対して公人という立場において非常に先礼な激しい言葉を用いまして一市民に帰りましてたときに非常にその点については心の甲ではおわびしなくちゃならないという気持ちで一杯でございます。どうもいままで議場におきます私の行動につきまして多少感情にまみれましてた点につきまして深くおわびする次第でございます。議員を去りましてまた私を送出して下さいました六百余名の人た

ちというものはまだつなび、ております。今後いろいろ陳情とかその他の関係で市会にお願いしなく、ちゃんと面白い問題がいろいろあると思います。すがその節はいろくお願ひしたいと思います。一市民に帰りまして、一週五における議員生活の経験というものをいかにまして、当市の発展のために多少なりとも力を尽したい。こういう考えであります。今後ともよろしくおねがいします。長い間いろいろありがとうございました。(拍手)

議長(石井 潔君)お、せつけによりこの席から伊勢カ議員に送別の言葉をうつさせていたでございます。

今回伊勢議員に就いてはいわゆる電話局の管理者も、と申し上げますならば課長に昇進され管理職は議員をしてはいけないというような電話局内の内

現等がございましてこれにゆざゆいせしめてお辞め
 になる次才です。誠に私共といた——ましては残念に考
 えております。又そういうことをさうすく聞いてお
 ったのであります。が何分にもあと任期ありますと
 こッヶ月位のこととございしますがなんとかこのまゝで
 議席を持つていただきたいという念願で一杯でござい
 ま——て実はこの問題にあまりふれないであつた次才
 でございます。ところが今日あすにまゝた問題で
 どうしても辞職しなけいばならぬやうなことに
 なりまして誠に鎌山市議会といた——ましては残念
 至極に存する次才でございます。ただ御承知の通り
 伊勢カ議員に對してはすいを通す論客としてそ—
 てその三年間あるいはその前にもこのやうな目に
 あつておりまして伊勢まんは今回が二回目であり

ます。誠に私もは痛切に伊勢君の身上を考へる時
に御同情申上げる次第でございます。どうか今行市
民に帰らいましても從來のような正しいすいさと
おす御意見をもちて我々議會を弁達しなほ市
政のために御らんすいといだますようなにとぞ御
慈愛なまるようお願いして私の御挨拶を申上げ
ます。(拍手)。

議長(石井潔君)以上をもちて日程全部を議了いたしまし
た。これをもつて定例会を閉会いたします。

午後三時五十分閉会

昭和三十三年六月十九日

館山市議會

館山市議會議長 石井 潔

會議錄署名議員 山口 康

同 吉田 勇治郎

